

朝里地名考 (一)

「アサリ」はアイヌ語で「空に広く開けた土地」の意味である。

(その二)

小樽朝里まちづくりの会

朝里遺産部会 末永 通

アイヌの地名とは生活に根差した自然地名で、山、川、海など、自然の地形や特徴に由来することが多いとされる。夏冬移動していた生活者による土地の説明である。

天明六年(1786)の西蝦夷地場所海浦日誌(筆者は最上徳内か大谷逸平)には「アサリ(朝里小使イトコンナ)とアイヌの居住が記されているが、松浦武四郎の嘉永三年(1854)再航蝦夷日誌、安政四年(1857)西蝦夷日誌にも朝里のアイヌの事は載っていない。さらに安政四年(1857)朝里来住の村井儀三郎、山口ソダの言では、その年朝里、熊碓にはアイヌは住んでいなかったとの証言がある。文久三年(1864)に来住した木村スエも朝里にアイヌの居住は無かったと証言している。従って小林廣は土地のアイヌから「アサリ」の地名を聞いたので

はないと思われる。私も昭和の最後の年から新光に居住し、南方の山々を除くと、西の河岸段丘と東の石切山山系の間の、朝里川による小扇状地で、北東は石狩湾に面し、鬱陶しさのない空間を感じてきた。

バチエラーの本が、知里真志保から理不尽なほどに非難されていることは知っていたので、私自身この本を自然と避け、探そうともしていなかった。この永田方正の北海道蝦夷語地名解に付された「アイヌ地名解」の例言によると「本篇はジョン・バチエラー氏著、アイヌ英和辞書第五章第二節に就き本廳嘱託員狩野時二之を翻訳し原著者の校正を経たるものなり」とある。1923年(大正12年)にバチエラーは70歳になり、宣教師を退職し



THE AUTHOR AND CHIEF PENRI IN 1879.

写真1 平林ペンリウク47歳(左)バチエラー25歳(右)、明治12年(1879)

The Ainu and their Folk-lore, 1892

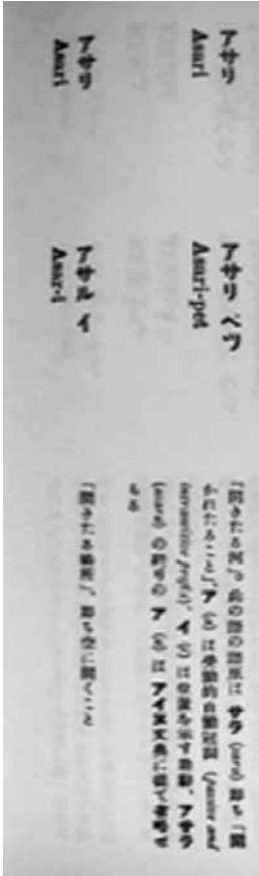


写真4 アイヌ地名考
(ジョンバチェラー) 4頁より、
アサリの記述



写真2 バチェラー初版(右)、永田北海小文典初版(左)

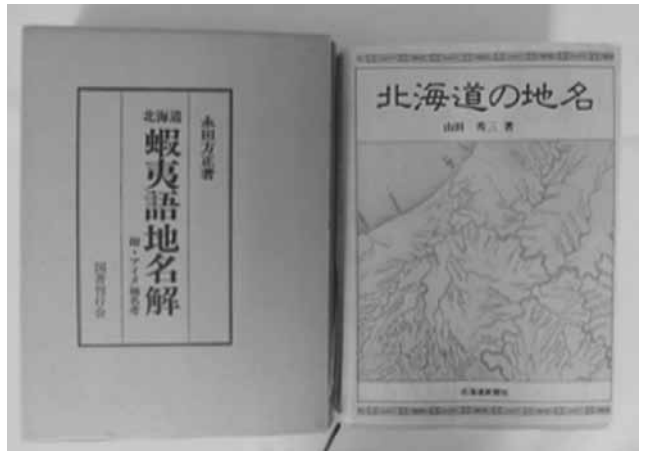


写真3 バチェラー地名解を付した再版「永田地名解」(左)と
バチェラーの記載がない「北海道の地名」(右)

たが、その後も札幌に留まり、北海道廳の社会課で嘱託として働いた。この時期に翻訳・校正されたものである。バチエラーは明治12年に平取に住み、首長の平村ペーリウク(写真1)からアイヌ語を学んでいる。またその後も函館に招き、さらに以後も交流を深めている。

知里らの批判はさておき、ジョン・バチエラーのアイヌ地名考でアサリと類縁の地名を眺めてみよう。当時の人がそう語っていた記録である。それを否定できるだけの根拠が無い限りはこの説は覆すのは難しい。

アイヌ語では、「yu sa」と「sha」との区別はしないので、類似地名、オホーツクの「斜里(Shari)」、平取に近い日高の「沙流(Saru)」はどうであろうか。(どちらも同書三七頁)

シャリ Shari サルイ Sarui 『開きたる場所』

サラ Sara サラモシリ Sara-moshiri サル

(saru)を見よ

サル Saru サルモシリ Sara-moshiri 『空迄開く

國』アサリ(Sari)を見よ

アサリ Asari アサルイ(Asari) 『開きたる場

所』、即ち空に開くこと

完動詞のサラの前につく接頭辞「ア」は特定の動詞の

状態を表すのに使われる。

このように「朝里」、「斜里」、「沙流」は同義として記載されている。

ちなみに、知里真志保のアイヌ語小辞典では「sa」に続き「sara さら」をあげており、

sara サラ(完)空いている…すいている…地があらわれている。

これはバチエラーの説明とほぼ同じである。

朝里の郷土史家小林廣は自著で自身の朝里地名説を開陳していた。バチエラーの地名考は、そのことを支持すること地名アサリに関する限り、この辞書には感謝しかない。

今後、地名「アサリ＝朝里」は、永田方正の「北海道蝦夷語地名解」や山田秀三の「北海道の地名」の考察を乗り越え、小林廣とジョン・バチエラーの解説に従い、アイヌ語で「空に広く開けた土地」の意味であると考えたい。

参考文献

- 1 小林 廣 いなりの坂 小樽朝里まちづくりの会 平成十四年
- 2 知里真志保 地名アイヌ語小辞典 北海道出版企画センター 2006 六刷
- 3 知里真志保 「アイヌ語学」昭和二十八年五月二十七日至二十六札幌放送「北海道事始め」222,227頁 NHK札幌中央放送局編 検査書房版 昭和31年
- 4 ジョン・バチエラー 蝦和英三對辭書 国書刊行会 復刻第二刷 平成七年 解説 惣郷正明
- 5 ジョン・バチエラー遺稿 我が人生の軌跡 仁多見蔵・飯田洋右訳編 北海道出版企画センター 19936 知里真志保「地名アイヌ語小辞典」六刷 北海道出版企画センター 2000
- 7 北海道蝦夷語地名解 附「アイヌ地名考」(ジョン・バチエラー) 永田方正著 国書刊行会 復刻三版 昭和53年